

**産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業
に係る岡山県高等学校教育改革伴走支援業務委託仕様書**

1 業務の名称

産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業に係る岡山県高等学校教育改革伴走支援業務

2 委託期間

契約締結日から令和9年3月31日まで

3 業務の目的

本県では、国の「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」を踏まえ、県内の県立高等学校等において、高校教育改革を先導する拠点校（以下「拠点校」という。）を創出することとしている。

本業務は、本県における拠点校の創設に関連する事業（事業期間：令和8年度～令和10年度）を着実に進めていくために必要な支援を行うことを目的とする。

4 事業全体のイメージ

令和8年度：事業全体の詳細設計、各拠点校における取組の試行的実施

令和9年度：各拠点校における取組の実施・改善

令和10年度：各拠点校における取組の実施、成果検証、令和11年度以降も持続可能な体制の構築、県内高校等への普及

5 本委託業務の範囲

本委託業務の対象期間は、上記全体イメージのうち1年目（令和8年度）のみであるが、受託者は事業全体（3年間）の取組内容を十分に理解した上で、本委託業務の目的を達成するため、以下の業務を行う。

6 委託業務の内容

（1）全体統括及び進捗管理業務

受託者は、事業全体の総合的な管理運営を実施するため、以下の業務を行う。

ア 業務全体の進捗管理

受託者において作成するマスタースケジュールをもとに、本業務全体の進捗の確認、課題分析、改善提案を行う。課題分析や改善提案においては、新規の取組に限定せず、既存の教育活動との全体最適を図る提案を行うこと。

イ 関係機関との連携調整

県教育委員会事務局、拠点校、その他関係機関との連携調整を行う。

ウ 定例会議の開催

県教育委員会事務局に対する進捗報告等を行う会議（オンライン含）を月1回程度開催する。定例会議以外にも、県教育委員会事務局からの支援要請に対し、県教育委員会事務局への直接訪問も含め、柔軟かつ迅速に対応できる支援体制を構築すること。

（２）各拠点校への伴走支援業務

受託者は、各拠点校における取組について、以下のとおり伴走支援を行う。なお、各拠点校個別の取組及び委託内容の詳細については、別紙の拠点校ごとの個別仕様書による。

ア 計画詳細化支援

各拠点校の取組内容をもとに、３年間のロードマップ（マスタースケジュール）を作成し、各取組の計画立案支援を行う。取組計画の立案においては、既存の教育活動との全体最適を図る提案を行うこと。

イ 施設・設備整備支援

各拠点校の求めに応じて、以下に示す内容について必要な支援を行うこと。

（ア）施設・設備仕様の調査・検討支援

各拠点校の取組内容・カリキュラム計画をもとに、施設改修のイメージや導入が必要な設備・備品の仕様を整理し、メーカー・市場調査、複数社からの見積取得・比較検討を支援する。

（イ）導入計画の立案支援

施設・設備整備スケジュール・授業開始時期・予算制約等を踏まえた施設・設備整備計画（発注時期・調達先・搬入時期・据付・試運転・本格運用の一連のスケジュール）を立案・進捗管理する。

（ロ）早期調達・物価高騰対策支援

市場の物価動向を踏まえ、施設竣工前の早期調達が有効な備品等の品目を特定し、調達・校内保管の手続き支援を行う。

（ハ）発注・調達プロセスの支援

本県における施設・設備整備の方法を踏まえた発注仕様書の作成支援等、円滑な発注・調達を支援する。

（ニ）搬入・設置・試運転支援

施設竣工後の搬入・据付・試運転・動作確認の工程管理を支援するとともに、必要に応じてメーカー・施設・設備整備業者との調整を行う。

（ホ）運用計画・教員研修との連動支援

各設備の運用マニュアル作成支援、設備導入に伴う教員向け操作研修の企画・調整支援を行い、教育実践への円滑な接続を図る。

（ヘ）施設・設備整備優先順位整理・代替案の提案

各拠点校における施設・設備整備の優先順位整理・代替案の提案を行う。

ウ 教材・ツール整備支援

各拠点校の取組内容をもとに、教材・ツール、その他学習支援に係る電子コンテンツ等に関する選定、発注、調達、整備、運用支援を行う。ツール等の調達においては、全国的な利用状況や高等学校支援実績を踏まえて選定を行うこと。

エ 外部専門人材整備支援

各拠点校の取組内容をもとに、外部専門人材に関する選定、依頼、調整、講演会等の準備・当日の運営及び謝金・旅費等の支払い実務を行う。常駐スタッフ（コーディネーター）のように、学校の教育活動に長期間関わる人材については、本事業終了後の域内展開を見据え、岡山県内の人材を積極的に活用すること。

オ 計画具現化支援

各拠点校の取組内容をもとに、カリキュラム化、シラバス作成の支援を行う。カリキュラム化においては、拠点校の教職員とのワークショップなどを通じ、既存の教育活動との全体最適を図る具現化支援を行うこと。

カ 外部連携先との連携支援

各拠点校の取組ごとに想定している外部連携先との連携支援を行う。

キ 取組遂行支援

各拠点校の取組の遂行に係る研修、マニュアル作成、ノウハウ抽出等を行う。研修については、協力校からの参加（オンライン含）も可能となるよう配慮すること。また、拠点校所属教員が高校教育改革の必要性を認識するための研修を継続して行うこと。マニュアル作成については、校内の説明や他校展開が行いやすい形式で作成すること。

ク 成果検証支援

各拠点校の取組に関する成果指標等について、成果検証のための KPI 設定、ルーブリック作成、調査設計及び調査実施の支援を行う。

KPI の設定にあたっては、改革目標の進捗が定期的に確認できるよう関連する項目を複数設定すること。

ルーブリック作成にあたっては、拠点校が目指す人材育成方針を踏まえた素案を作成し、当該素案を基に校内検討が行えるよう支援すること。

生徒の資質・能力に関わる成果の可視化においては、アセスメントツール等を適切に設計、導入するとともに、各能力の変容分析を行うこと。

ケ 分析・改善支援

各拠点校の取組に関する成果指標等について、目標の達成に向けた検証と改善提案を行う。改善提案においては、拠点校と類似した属性を持つ先進校の取組を踏まえた提案を行うこと。なお、別紙の拠点校ごとの個別仕様書の委託内容の発展的な変更についても提案を行うこと。

コ 定例会議の開催

各拠点校との定例会議を月 1 回程度（オンライン含）開催し、進捗確認、課題改善協議を行う。定例会議以外にも、拠点校からの支援要請に対し、拠点校への直接訪問も含め、柔軟かつ迅速に対応できる支援体制を構築すること。

（３）成果のモデル化と普及支援業務

ア 事業成果報告書の作成等

各拠点校における好事例、ノウハウ、効果（定量・定性）の収集・整理を行うとともに、事業全体

及び各拠点校の成果をまとめた報告書を作成する。

イ 他校展開準備（モデル化）支援

成果を、カリキュラム、教員及び生徒のスキル・マインド、ネットワークの3観点でモデル化する。

カリキュラムについては、学校設定科目として県内他校における自立的な利用が行える教材の作成支援を行うこと。

教員及び生徒のスキル・マインドについては、改革目標に合わせたルーブリックを作成するとともに定期的にアンケートによる定量調査（自己評価など）を行って成長履歴を蓄積することで、県内他校が学校ごとの方針に応じた育成計画の立案に活用できるようにすること（学習意欲、学習行動、教科成績、志望校、進路先などの要素と絡めた指標化が行えること）。

ネットワークについては、各校の教育目標に沿って、専門機関、専門人材、地域人材に効率的に相談ができる基盤を設計すること。

ウ 他校展開支援

モデルの域内展開計画を立案し、県内高校等を対象とした説明会、校内研修会などを行う。

エ 県内展開準備支援

事業成果報告書等をもとに、プロモーション資料の作成を行う。プロモーション資料の作成は、県民のニーズ調査やステークホルダーヒアリング調査を踏まえた広報計画（四半期及び月次の実行テーマ）を立案の上、計画的に行うこと。

オ 県内展開支援

本事業に関するセミナーの企画・運営支援、Web、SNS、広報媒体を活用した情報発信を行う。

各メディアの活用・発信方法のアドバイスなど、プレスリリースや告知物の監修を行う。

※上記6（3）エ「県内展開準備支援」及びオ「県内展開支援」の業務は、県が別途発注する他業務にて実施するが、本業務の遂行にあたり関連する業務であるため、受託者は他業務の受託者と十分な連携を図ること。

（4）成果物

受託者は、指定する期日までに以下の成果物を県に提出しなければならない。

- ・事業実施計画書
- ・定期管理報告書
- ・効果検証資料
- ・開発教材、指導用マニュアル、事例集等
- ・事業成果報告書
- ・その他県が必要と認める資料

7 実施体制

- （1）受託者は、本業務の開始から終了までの間、事業実施方法や進捗状況の確認等、事業の円滑な実施のために、事業内容を総合的に判断でき、かつ作業進行を適切に処理できる、以下の要件を満たす実施体

制を整備することとする。

ア 統括責任者

本業務全体の責任者として、県教育委員会事務局との連絡調整、事業全体管理・進捗管理を行う。

イ 各拠点校における伴走支援担当

担当する拠点校の実務全体の責任者として、教職員、外部機関と連携し、拠点校における既存の取組との最適化を図りながら、企画の実行・成果検証・改善支援を行う。

ウ 各拠点校における企画具体化支援担当

教育改革、地域連携、探究学習など取組に関する専門的な知見をもとに、企画具体化支援を行う。

- (2) その他、各拠点校の取組内容に応じて必要な人員を適宜配置するとともに、拠点校への常駐までは求めないものの、県教育委員会事務局及び拠点校からの問い合わせや相談等に常時速やかに対応できるよう、専用の連絡窓口（電話回線等）を設置し、業務時間内において常に連絡が図れる体制を構築すること。

8 個人情報に関する取扱い

本業務の履行及び作成された成果物における個人情報の取扱いについては、以下に定めるとおり取り扱うものとする。

- (1) 本業務で使用する個人情報については、その必要性を十分検討し、必要最小限にするとともに、個人の権利及び利益を侵害することのないよう配慮するものとする。
- (2) 本業務で使用する個人情報については、収集から廃棄に至るまで適切に取り扱うものとする。

9 著作権等

- (1) 成果物に含まれる第三者の著作権その他の権利についての交渉・処理は、受託者が納品前に処理を行うこととする。
- (2) 本業務に関する著作権その他の権利は、県に帰属するものとする（著作者人格権は行使しないものとする。）。また、成果物に関しては全て、デジタルデータを県に無償譲渡すること。なお、県と受託者が協議の上、欠かすことができないと認めた構成素材のうち、当該著作権を帰属させることが困難なものについてはこの限りではない。

10 委託業務実施結果の報告

委託業務終了後、速やかに委託業務実施報告書（任意様式）を提出すること。委託業務実施報告書には、打合せ記録、伴走支援業務遂行にあたって提供した資料一式等の必要書類を添付すること。

11 その他

- (1) 業務実施に当たっては、役割分担・責任体制等を明確にするとともに、県と受託者は相互に連絡を密にすること。
- (2) 本業務を行う上で関連して必要となる事項で、本仕様書に記載されていない事項又は疑義が生じた事項については、県と受託者の協議により決定する。

- (3) 産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業は、終期（令和 11 年 3 月 31 日）までに事業計画で定める教育改革の成果を上げる必要があり、令和 10 年度末までの取組の継続性が強く求められるものである。このことから、令和 9 年度及び令和 10 年度の本業務の契約について、令和 9 年度及び令和 10 年度の岡山県予算への当該経費の計上に係る岡山県議会の議決が得られた場合は、令和 8 年度の本業務受託者と随意契約を行うことがある。

個別仕様書（東岡山工業高等学校）

1 基礎情報

学校名：岡山県立東岡山工業高等学校

住 所：岡山県岡山市中区土田 290-1

生徒数：814 名（令和 8 年 5 月 1 日現在）

学科等：全日制・機械科、電子機械科、電気科、設備システム科、工業化学科

2 事業計画名

次世代産業を牽引する高度専門職人材育成の拠点形成

3 主な取組内容

- （1）一括募集による T 型人材の育成
- （2）学科の壁を超えた教育課程の編成
- （3）夢育ホールでの産学共創システムの日常化
- （4）探究フェスの実施【本委託業務の対象外】
- （5）未来社会の実装に向けたカリキュラム開発【本委託業務の対象外】
- （6）工業高校の生徒を対象とした学校推薦型入試等の検討【本委託業務の対象外】
- （7）ビジネスプロセスを設計する教育プログラムの開発
- （8）株式会社 SLORM（仮称）の設立と活動の展開
- （9）和気町の地域ブランド化への直接貢献
- （10）ジュニア・アトツギ・ワークショップの開催
- （11）最新技術の体験会の実施
- （12）探究活動の支援体制構築
- （13）学びの相棒としての独自生成 AI の研究・開発と活用【本委託業務の対象外】
- （14）安全教育研修パッケージの構築
- （15）PBL 指導法の確立【本委託業務の対象外】
- （16）産学連携によるリアルな学び
- （17）企業による技術リスキリング
- （18）安全管理の高度化
- （19）業務負担軽減
- （20）個別最適な学びの DX【本委託業務の対象外】
- （21）企業・大学等との連携・協働
- （22）東岡山工業デジタル&アントレプレナー・ハブ構築事業【一部本委託業務の対象外】

※取組内容の末尾に「【本委託業務の対象外】」と記載している取組は、拠点校による直接実施または別途発注する他業務にて実施するが、本業務の遂行にあたり関連する取組であるため、受託者は拠点校または他業務の受託者と十分な連携を図ること。

※マスタースケジュールの作成、事業の企画・運営、連携する大学や企業等の選定、配置する外部人材の選考等、本事業の実施に関わる一切の意思決定に当たっては、事前に拠点校と緊密に協議を行い、その意向を十分に反映させること。また、それぞれの取組内容等の名称は仮であり、事業の具体化を進めていく中で適切な名称を提案すること。

4 委託業務の内容

(1) 一括募集によるT型人材の育成

区分	内容
取組の概要	入試の在り方を変え、学科ごとの募集から「一括募集」に変更する。1年次の工業科目を「工業技術基礎」と「工業情報数理」に集約し、普通教科と共に横のつながりを持った学びの基礎となる学力を十分に身に付けさせた上で、2年次以降の専門教育における連続した学びへと繋げ、知識と技術の深化を図る。専門領域を持ちつつ、周辺技術を理解できる「T型人材（多機能型技術者）」の土台を作る。
委託内容	・ 学科構想・スクール・ポリシー・カリキュラム策定支援 ・ カリキュラム編成に係る外部専門家の選定と支援調整 ・ ステークホルダー（生徒及び保護者など）へのヒアリング・アンケートの実施 ・ 学科構想・スクール・ポリシー・カリキュラムに係る広報計画及び広報資料作成 ・ 時間割（案）の作成 ・ 新しい入試制度に向けた支援及び広報活動 ・ 全国他校の入試広報事例の提供 ・ 取組状況の分析と検証、改善計画立案
実施時期 （現時点の 想定）	令和8年度：学科構想・スクール・ポリシー（案）策定 外部専門家との協議を踏まえたカリキュラム策定 時間割（案）の作成 取組の試行的実施 令和9年度：生徒及び保護者ヒアリング 学科構想・スクール・ポリシー策定 時間割（案）の作成 カリキュラムの導入開始 取組状況の分析と検証 広報計画の立案及び広報資料の作成 新しい入試制度に向けた支援及び広報活動 令和10年度：時間割（案）の作成 カリキュラムの実施 取組状況の分析と検証 広報計画の立案及び広報資料の作成 新しい入試制度に向けた支援及び広報活動

(2) 学科の壁を超えた教育課程の編成

区分	内容
取組の概要	例えば、課題研究において、「機械科のハードウェア」と「電気科の制御ソフト」を組み合わせた学科横断チームを編成するなど、小学科の枠を超え、生徒自らがプロジェクトに必要なメンバーを集める「STEAM 型学習」を導入する。
委託内容	・教科等横断型カリキュラムの編成支援 ・カリキュラム編成に係る外部専門家の選定と支援調整 ・『STEAM 型学習』の導入に係る支援
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：外部専門家との協議を踏まえたカリキュラム策定 令和9年度：導入開始 取組状況の分析と検証 令和10年度：カリキュラムの実施 取組状況の分析と検証

(3) 夢育ホールでの産学共創システムの日常化

区分	内容
取組の概要	地元企業のエンジニアが日常的に利用できるワーキングスペースを併設した夢育ホールを新設する。企業が抱えるリアルな開発課題等を生徒に開示し、その課題解決のために大学とも連携しながら、放課後や時程内にプロと高校生と大学がつながる「合同ミーティング」を日常化させる。
委託内容	・夢育ホールに備える設備等の要件を踏まえた、外部協力機関（地元企業や大学）からのリアルな開発課題の探究テーマ化支援 ・地元企業や大学とのマッチング調整 ・外部エンジニアによる技術指導の体制構築 ・「合同ミーティング」の運営のコーディネート ・取組状況の分析と検証、改善計画立案
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：地元企業・連携大学の選定 「合同ミーティング」の運営計画策定 外部エンジニアによる技術指導の体制構築 令和9年度：取組の試行的実施（1学期） 本格実施（2学期以降） 取組状況の分析と検証 令和10年度：取組実施 取組状況の分析と検証

(4) 探究フェスの実施【本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	研究成果発表「探究フェス」を「ビジネスマッチング」の場へと進化させる。地元金融機関や大学や企業、商工会議所などの各分野から審査員を招き、優れたプロジェクトには企業からの実証実験予算の提供や自身の研究を生かした進路先開拓など、具体的な経済的・社会的インセンティブを付与する。

(5) 未来社会の実装に向けたカリキュラム開発【本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	筑波大学 山海嘉之教授・サイバニクス研究センター研究統括、サイバーダイナ株式会社（文科省指定研究機関、サイバニクスの社会実装企業）、関連企業等との連携体制を構築し、産学官による「未来社会の実装」に向けた教育カリキュラム開発を行う。 「HCPS 融合サイバニクス with フィジカル AI（人や社会の複合課題を解決するための新学術領域）」の第一人者である筑波大学の山海嘉之教授の協力により、装着型サイボーグや小型バイタルセンサ、サイバニクスフィジカル AI など最先端の科学技術とともに、生命、心理、倫理、経済等についても講演会等を通じて学ぶ。また、フィジカル AI 時代の技術者に不可欠な資質・能力を育成するため、探究学習の中で「半導体チップ設計・評価環境」を導入し、社会実装につながるプロジェクト学習を実施する。

(6) 工業高校の生徒を対象とした学校推薦型入試等の検討【本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	山海嘉之教授の協力によるプロジェクトをはじめ、大学や企業等の支援を受けて探究学習を行い、資質・能力を身に付けた工業高校の生徒を対象とした学校推薦型入試等の検討を大学に依頼する。このことにより、県内工業高校生が最先端の工学分野へ羽ばたく革新的な進路実現を目指していく。

(7) ビジネスプロセスを設計する教育プログラムの開発

区分	内容
取組の概要	大学や自治体、農業高校・商業高校とも連携し、センサー制御（工）、水質・バイオ（化・農）、原価・流通管理（商）を統合した新たなビジネスモデルを構築。収穫物を地域ブランドとして販売し、「ものづくりからマーケット」までの一貫した「ビジネスプロセス」を設計する教育プログラムを開発する。
委託内容	・教育プログラムの検討 ・連携先との連絡調整 ・農業・商業系高校との共同研究の調整 ・地域ブランド化に向けた販売コンサルティング支援 ・取組状況の分析と検証
実施時期 （現時点の 想定）	令和8年度：教育プログラム策定及びプレ実施 協力校との連携調整 令和9年度：教育プログラム開始 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：教育プログラムの実施 取組状況の分析と効果検証

(8) 株式会社 SLORM（仮称）の設立と活動の展開

区分	内容
取組の概要	従来の工業教育の枠組みを抜本的に刷新し、実社会の経済循環と最先端技術を高度に融合させたエコシステムを構築する。本校の5つの専門学科（機械、電気、電子機械、工業化学、設備システム）が持つスキルを結集させた「株式会社 SLORM（仮称）」を校内に設立し、主体的な活動を展開する。
委託内容	・株式会社設立に関する事務・法的支援 ・会社経営や起業に関する実務指導
実施時期 （現時点の 想定）	令和8年度：株式会社設立に関する事務・法的支援 会社経営や起業に関する実務指導 株式会社設立 令和9年度：取組状況の分析と効果検証 令和10年度：取組状況の分析と効果検証

(9) 和気町の地域ブランド化への直接貢献

区分	内容
取組の概要	和気町と協働し、本校が開発した養殖・水耕栽培技術の提供や水質分析代行、養殖魚の供給を行う。これらの活動を通じて和気町の地域ブランド化に直接貢献する。
委託内容	・ 学校と和気町の連携プロジェクトに関する連絡調整 ・ 各種技術・仕組みの設計及び提供に関する支援 ・ 取組状況の分析と検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：教育プログラム策定及びプレ実施 令和9年度：教育プログラムの開始 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：教育プログラムの実施 取組状況の分析と効果検証

(10) ジュニア・アトツギ・ワークショップの開催

区分	内容
取組の概要	「工業への憧れ」を早期に醸成するため、近隣の小中学校と連携した「ジュニア・アトツギ・ワークショップ」を定期開催する。高校生が先生役となり、夢育ホールのワークスペースでロボット製作やAI体験を指導。小中学生にとっては「ものづくり」の楽しさを知る場、高校生にとっては技術を伝える力・表現力を醸成する場、伝えることでより深い学びとなる世代を超えた「つながる」場とする。
委託内容	・ 夢育ホールに備える設備等の要件を踏まえた、「ジュニア・アトツギ・ワークショップ」の企画支援 ・ 高校生が教えるための教育スキルの指導 ・ 指導体験を通じた高校生の学習モチベーション向上につながる振り返りの設計 ・ ワークショップ事例を材料とした学校のブランド強化、プロモーション活用 ・ 取組状況の分析と検証、改善計画立案
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：「ジュニア・アトツギ・ワークショップ」の企画策定 令和9年度：高校生への教育スキル指導開始 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：「ジュニア・アトツギ・ワークショップ」の開始 取組状況の分析と効果検証

(11) 最新技術の体験会の実施

区分	内容
取組の概要	小中学校の教員に向けた「最新技術の体験会」を企業エンジニアと共同実施。地域全体で「新しい工業教育」への理解を深め、東岡山工業高校を核とした「地域産業人材育成の12年一貫モデル」の構築を目指す。
委託内容	・教員向け研修プログラムの開発 ・企業エンジニアと連携した体験会の実施支援 ・地域産業人材育成の12年一貫モデル構築資料の作成 ・体験会事例を材料とした学校のブランド強化、プロモーション活用
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：教育プログラム策定及びプレ実施 企業エンジニアとの調整・協議 令和9年度：教育プログラムの開始 地域産業人材育成の12年一貫モデル構築作成開始 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：教育プログラムの実施 取組状況の分析と効果検証 地域産業人材育成の12年一貫モデル構築作成完了

(12) 探究活動の支援体制構築

区分	内容
取組の概要	夢育ホールに常駐の職員を配置し、時程内外を問わず、高校生の活動をサポートする。
委託内容	夢育ホール職員の配置 (業務内容) 生徒の探究活動の伴走支援や地域人材、企業、大学、研究機関等との連携支援及び探究成果の進路実現を支援するなどのコーディネート業務を行う。 (想定人員) 上記のコーディネート業務を行うために必要な知識を有する者 (勤務形態) 1日当たり6時間、週5日程度を想定しているが、学校の教育活動等の状況を踏まえ、常駐型、パートタイム型、定期訪問型、オンライン支援型又はこれらを組み合わせた体制を提案できる。ただし、生徒及び教職員が継続的に相談でき、学校との信頼関係が蓄積される配置とし、単発的な講師派遣のみの提案は想定していない。 (配置時期) 契約締結後、すみやかに配置することを想定（夢育ホール竣工前は、学校が指定する場所で業務に従事する） ※夢育ホール職員の人件費及び出張旅費等の活動経費は、本委託料に含む。
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：夢育ホール職員の配置 令和9年度：夢育ホール職員の配置 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：夢育ホール職員の配置 取組状況の分析と効果検証

(13) 学びの相棒としての独自生成AIの研究・開発と活用【本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	生徒自身が課題を整理し、思考を深めるための「対話」を行うことで、独自に育てることのできる「学びの相棒」としての独自生成AIの研究・開発を進め、授業や探究活動などで日常的に活用し、学ぶ力の育成につなげる。

(14) 安全教育研修パッケージの構築 ※ (18) と連携した取組とすること。

区分	内容
取組の概要	実際の製造現場を VR/AR 空間に再現。単なる事故体験ではなく、「なぜその事故が起きたか」をデータで分析し、自ら安全マニュアルを策定・更新するプロセスを学習する。これを「安全教育研修パッケージ」として工業教育協会等へ提供し、地域全体の安全レベル向上に寄与する。また、実際に破損した工作物や道具の展示と、その破損が発生したプロセスを解説することで、よりリアルな KYT（危険予知トレーニング）ができるようにする。
委託内容	・ VR/AR 安全教育システムの開発・構築 ・ 教育プログラムの設計 ・ 他校への普及を視野に入れた「安全教育研修パッケージ」の制作 ・ 取組状況の分析と検証
実施時期 （現時点の 想定）	令和8年度：教育プログラム策定及び取組の試行的実施 VR/AR 機器の導入 令和9年度：教育プログラムの開始 「安全教育研修パッケージ」の制作開始 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：教育プログラムの実施 取組状況の分析と効果検証 「安全教育研修パッケージ」の制作完了

(15) PBL 指導法の確立【本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	米国のハイテック・ハイ（HTH）への海外研修を通じ、全教科を貫く実践的な PBL の手法を習得する。帰国後は校内伝達研修を組織化し、「教えるから引き出す」ファシリテーション型授業の充実を図る。

(16) 産学連携によるリアルな学び

区分	内容
取組の概要	企業や大学と連携した共同プロジェクトを推進し、教員自身が社会のリアルな課題を教材化するスキルを向上させる。
委託内容	・ 企業・大学との共同研究プロジェクトのコーディネート ・ 実社会の課題データの提供協力 ・ 共同研究プロジェクト成果物の教材化支援 ・ 社会のリアルな課題の教材化に関するスキル定義と教員向け研修の実施 ・ 事業内容の効果検証
実施時期 (現時点の想定)	令和8年度：連携企業・大学との協議を踏まえた教育プログラム検討・策定 教員研修の実施 取組状況の分析と効果検証 令和9年度：昨年度の検証結果を踏まえた教育プログラム修正・策定 教員研修の実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：昨年度の検証結果を踏まえた教育プログラム修正・策定 教員研修の実施 取組状況の分析と効果検証

(17) 企業による技術リスキリング

区分	内容
取組の概要	整備した高度な施設・設備を活用し、メーカー技術者から直接指導を受ける「校内技術研修」を実施。最新の産業技術に対応した指導力向上を目指す。
委託内容	・ メーカー技術者による校内実習指導・技術講習のコーディネート ・ 最新設備の操作・活用マニュアルの提供 ・ 事業内容の効果検証
実施時期 (現時点の想定)	令和8年度：「校内技術研修」の企画立案、メーカーとの協議 令和9年度：「校内技術研修」の開始 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：「校内技術研修」の実施 取組状況の分析と効果検証

(18) 安全管理の高度化 ※ (14) と連携した取組とすること。

区分	内容
取組の概要	KYT ルームを活用した実習安全教育を徹底し、高度な実験・実習におけるリスクマネジメント能力を強化することで、事故を未然に防ぐ教育環境を担保する。
委託内容	・実習安全教育プログラムの構築 ・事業の効果検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：実習安全教育プログラムの構築開始 令和9年度：実習安全教育プログラムの構築 令和10年度：実習安全教育プログラムの開始 取組状況の分析と効果検証

(19) 業務負担軽減

区分	内容
取組の概要	教員間の情報共有の迅速化や、学科間の横断プロジェクトの打ち合わせ等を円滑に行うため、学科間の壁を取り払った専門科総合職員室を設置することで業務を効率化する。また、実習準備や校務分掌の重複を整理し、相互補完できる体制を整えていく。
委託内容	・組織横断的な校務分掌の再設計支援 ・効率的な職員室レイアウトの提案 ・業務の効率化に係る効果検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：組織横断的な校務分掌の再設計 効率的な職員室レイアウトの検討 令和9年度：組織横断的な校務分掌の開始 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：組織横断的な校務分掌の実施 取組状況の分析と効果検証

(20) 個別最適な学びの DX【本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	自ら考え、実行できる生徒を支援するため、デジタルポートフォリオを導入し、学びのプロセスを可視化する。AI 解析等による客観的データに基づき、生徒一人ひとりの挑戦を促す指導へと改善を図る「指導の PDCA」を確立する。

(21) 企業・大学等との連携・協働

区分	内容
取組の概要	各連携先とのコーディネートを行うとともに、企業・大学等で構成する協議体を設け、年 2 回程度、取組の進捗状況等について協議を行う。
委託内容	・各連携先との連絡管理調整 ・各連携先との連携状況の把握と検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和 8 年度：各連携先との連携計画立案 連携の実施 令和 9 年度：連携計画の修正 連携の実施 取組状況の分析と効果検証 令和 10 年度：連携計画の修正 連携の実施 取組状況の分析と効果検証

(22) 東岡山工業デジタル&アントレプレナー・ハブ構築事業【(2)は本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	(1) データ分析に基づく個別最適な進学指導と学力向上支援 ・生徒の学習ログや進路アセスメントの結果を精密に分析する。これにより、工業高校生が直面する学習上の課題や学力の伸長度を客観的に把握し、一人ひとりに最適な学習プランを提示する。 ・岡山県高等学校工業教育協会との連携により、県内全域から進学志向の生徒が集う「(仮称) たくみ塾 (工学系大学進学セミナー)」を定期開催する。データに基づく適切なフィードバックと、同じ志を持つ仲間との切磋琢磨を通じて、難関工学系大学への進学に対する「高い志」を3年間維持・向上させる支援体制を確立する。 (2) アントレプレナーシップ教育による価値創造能力の育成【本委託業務対象外】 ・アントレプレナーシップ教育に強みを持つ地元企業と協働し、県内外の専門高校生がチームを組んで挑む「ものづくり合宿」を実施する。 ・デザイン思考を用いた課題設定から、プロトタイピング、ビジネスモデル立案までを一貫して体験させる。これにより、従来の仕様にに基づく製造に留まらず、社会ニーズを自ら捉えて「新たな価値を創造・提供できる」エンジニアへの変容を促す。 (3) 強固な高大接続による次世代リーダーの輩出 ・岡山大学DS (データ・サイエンス) 部員など大学生や大学院生の協力により夢育ホールでの放課後の学習支援、探究支援、相談、データ・サイエンスや生成AIのレクチャー等を実施する。
委託内容	・学習データ解析および個別フィードバックの提供 ・岡山県高等学校工業教育協会と連携した「たくみ塾 (工学系大学進学セミナー)」の企画・定期開催 ・岡山大学DS (データ・サイエンス) 部員などの大学生・大学院生による放課後の学習支援、相談対応、および技術レクチャーの実施 ・「夢育ホール」を拠点とした大学生との定期的な交流機会の創出
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：各事業の計画立案 取組の試行的実施 令和9年度：各事業の計画修正 各事業の実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：各事業の計画修正 各事業の実施 取組状況の分析と効果検証

(23) 事務局機能

区分	内容
取組の概要	上記取組の実施に必要な事務局機能を委託することで、教職員の業務負担を軽減する。
委託内容	・ 外部人材への謝金・旅費等の支払い実務 ・ 事務局機能（会議調整、議事録作成、資料整理等）の実施

5 施設・設備整備について

本事業で想定している以下の施設・設備整備の内容について、受託者は共通仕様書 6（2）イの業務を行うこと。なお、設計・工事の発注や備品の購入契約自体は本委託業務の対象外とする。

教室等の名称	施設整備の内容（想定）	導入設備（想定）
夢育ホール（仮称）	・ 新築 ・ 駐車場整備 ・ 防球ネット設置	・ 大型ディスプレイ ・ 高性能プロジェクタ ・ ホワイトボード ・ フィジカル AI 関連機器 ・ 可動式デスク・チェア ・ ソファ
アリーナ	・ 体育館改修 ・ 空調設備新設	・ 館内プロジェクタ
サブアリーナ	・ 武道場改修 ・ 空調設備新設 ・ 全面フローリング化 ・ 夢育ホール、体育館との連絡通路整備	—
職員室（専門科総合・共通）	・ 第 1 棟 2 階図書室・職員室改修 ・ フリーアドレス化	・ 机、椅子 ・ キャビネット類
KYT ルーム	・ 第 4 棟 2 階自動制御室改修	・ 可動式テーブル、椅子 ・ 安全体感装置
ミニラボ	・ 第 4 棟 2 階電気工作室改修 ・ 空調設備新設	・ 可動式テーブル、椅子 ・ 安全体感 VR 装置
DX ルーム	・ 第 1 棟 4 階製図室改修	・ 可動式テーブル、椅子 ・ ホワイトボード ・ モニター
ミニ DX ルーム	・ 第 1 棟 4 階製図準備室改修 ・ 空調設備新設	・ 可動式テーブル、椅子 ・ 高性能パソコン ・ 3D プリンタ
視聴覚教室	・ 第 2 棟 1 階視聴覚室改修	・ 大型スクリーン ・ 配信機材一覧

教室等の名称	施設整備の内容（想定）	導入設備（想定）
PC 教室	・ 第 6 棟 2 階プログラミング室・電子計算室改修	・ 高性能パソコン ・ ICT 機器
次世代型普通教室	・ 既存普通教室改修 ・ 黒板ホワイトボード化	・ スライド式大型電子黒板
女子更衣室	・ 第 6 棟 2 階自動制御準備室改修	・ 更衣用ロッカー
ウォーターカッター加工室	・ 第 4 棟 1 階電気機器実習室改修 ・ 空調設備新設	・ 小型ウォータージェット加工機 ・ 5 軸制御ウォーターカッター
ファイバーレーザー溶接室	・ 第 4 棟 1 階材料試験実習室改修	・ ファイバーレーザー溶接機 ・ 3D 溶接テーブル ・ テーブル用クランプ各種 ・ レーザー対応保護メガネ
ファイバーレーザー加工室	・ 第 4 棟 1 階原動機実習室改修	・ ファイバーレーザー加工機 ・ 集塵機 ・ コンプレッサー ・ 制御用 PC (CAD/CAM)
積層造形室	・ 第 4 棟 1 階機械科職員室改修	・ 3 次元金属積層造成機 ・ 粉末乾燥保管庫 ・ 粉末回収装置 ・ 冷却装置 ・ 集塵機
CNC 旋盤室	・ 第 4 棟 1 階計測制御実習室改修	・ CNC 旋盤
レーザー加工室	・ 第 6 棟 1 階計測実習室改修	・ 微細加工用ファイバーレーザー加工機 ・ 超コンパクト炭酸レーザー加工機 ・ 2D レーザー加工機 ・ 3D スキャナー
PFAS 研究室	・ 第 3 棟 1 階工業化学科職員室改修	・ ICP-MS システム
化学分析室	・ 第 3 棟 2 階化学分析室改修	・ ガスクロマトグラフ・タンデム質量分析計 ・ フーリエ変換赤外分光光度計 ・ 走査電子顕微鏡 ・ 宇宙養殖・アクアポニックス実験装置
BIM 実習室	・ 第 3 棟 1 階環境測定室改修	・ BIM 実習関係機材 ・ 高性能パソコン

教室等の名称	施設整備の内容（想定）	導入設備（想定）
ピロティ	・可動式ネット設置	—

個別仕様書（岡山操山高等学校）

1 基礎情報

学校名：岡山県立岡山操山高等学校

住 所：岡山県岡山市中区浜 412

生徒数：全日制 829 名、通信制 514 名 計 1,343 名（令和 8 年 5 月 1 日現在）

学科等：全日制・普通科、通信制・普通科

2 事業計画名

理系的素養・文理横断型高度探究人材育成の拠点形成

3 主な取組内容

- （1）文理の枠にとどまらない発想で探究を深化させるカリキュラム開発
～学校設定科目『SOZAN STEAM I』～
- （2）文理の枠にとどまらない発想で探究を深化させるカリキュラム開発
～学校設定科目『SOZAN STEAM II』～
- （3）柔軟なカリキュラム編成の研究
- （4）放課後学習支援活動の展開
- （5）放課後サイエンス・コミュニティの展開
- （6）各教科の対話的で探究的な授業実践
- （7）高度でワクワクする理科の授業展開
- （8）女性理系研究者育成のネットワーク構築
- （9）学びの相棒としての独自生成 AI の研究・開発と活用【本委託業務の対象外】
- （10）進路指導の最適化
- （11）海外進学に向けた支援の強化
- （12）通信制課程の機能強化～理系科目を中心とした教材開発～
- （13）通信制課程の機能強化～探究活動への支援の強化～
- （14）教員の資質・能力向上（視察系）【本委託業務の対象外】
- （15）各教科の授業が探究的なものになるための授業研修
- （16）県外先進校への訪問
- （17）情報公開
- （18）大学・企業等との連携
- （19）アントレプレナーシップの醸成
- （20）プレゼンテーションイベントの情報収集と参加支援
- （21）BeLive【本委託業務の対象外】
- （22）「未来航路」の発展と課題研究発表会の公開

※取組内容の末尾に「【本委託業務の対象外】」と記載している取組は、拠点校による直接実施または別途発

注する他業務にて実施するが、本業務の遂行にあたり関連する取組であるため、受託者は拠点校または他業務の受託者と十分な連携を図ること。

※マスタースケジュールの作成、事業の企画・運営、連携する大学や企業等の選定、配置する外部人材の選考等、本事業の実施に関わる一切の意思決定に当たっては、事前に拠点校と緊密に協議を行い、その意向を十分に反映させること。また、それぞれの取組内容等の名称は仮であり、事業の具体化を進めていく中で適切な名称を提案すること。

4 委託業務の内容

(1) 文理の枠にとどまらない発想で探究を深化させるカリキュラム開発

～学校設定科目『SOZAN STEAM I』～

区分	内容
取組の概要	データ・サイエンスや生成A Iを活用して、文理の枠にとどまらない発想で探究活動を深化させ、学びの視野を拡張する。 ・『データ・サイエンス入門&生成A Iワークショップ』 RESAS の活用法研修や、データ・サイエンスワークショップ等を通して、統計的思考力を身に付ける。生成A Iについて、プロンプト作成トレーニングや、A Iと対話しながら課題を解決していくプロセスの演習などを実践的に学ぶ。 ・『Primary STEAM PROJECT』ミニ探究 文系教科及び理系教科の2名の教員が担当し、各教科の視点から一つのテーマに文理横断的にアプローチするミニ探究を行う。 ・『Primary STEAM PROJECT』講演会・座談会 各分野の第一線で活躍している研究者による講演会や座談会を実施し、科学的視野を拡張させる。
委託内容	・カリキュラム編成への支援 ・『データ・サイエンス入門&生成AIワークショップ』企画立案及び運営 ・『Primary STEAM PROJECT』ミニ探究 企画立案及び運営 ・『Primary STEAM PROJECT』座談会 企画立案及び運営 ・事業の効果検証 ・探究支援コーディネーターの配置 (業務内容) 生徒の探究活動の伴走支援や地域人材、企業、大学、研究機関等との連携支援及び探究成果の進路実現を支援するなどのコーディネート業務を行う。 (想定人員) 上記のコーディネート業務を行うために必要な知識を有する者 (勤務形態) 1日当たり6時間、週5日程度を想定しているが、学校の教育活動等の状況を踏まえ、常駐型、パートタイム型、定期訪問型、オンライン支援型又はこれらを組み合

	わせた体制を提案できる。ただし、生徒及び教職員が継続的に相談でき、学校との信頼関係が蓄積される配置とし、単発的な講師派遣のみの提案は想定していない。 (配置時期) 契約締結後、すみやかに配置することを想定 ※探究支援コーディネーターの人件費及び出張旅費等の活動経費は、本委託料に含む。
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：探究支援コーディネーターの配置 カリキュラム策定及び各種企画立案 令和9年度：探究支援コーディネーターの配置 各種企画の開始、取組状況の分析と効果検証 令和10年度：探究支援コーディネーターの配置 各種企画の開始、取組状況の分析と効果検証

(2) 文理の枠にとどまらない発想で探究を深化させるカリキュラム開発

～学校設定科目『SOZAN STEAM II』～

区分	内容
取組の概要	1年次の『SOZAN STEAM I』を基礎として、より高度な科学的知見に触れ、文理横断的に探究課題にアプローチする学びを展開する。下記はその例である。 ・『社会実装を見据えたものづくり』 山海嘉之教授の協力により、『サイバニクス』等最先端の科学技術について、講義に加えて東岡山工業高校（協力校）の工業系の工作機器を活用した学びの設定、『半導体チップ設計・評価環境』の導入によるフィジカルAI時代を見据えた人や社会のための「ものづくり」の実践等を行う。 ・『遺伝についてのワークショップ』 高性能PCや3Dプリンタを用いた遺伝情報のモデル化を行い、生命科学分野の研究アプローチについて学ぶ。 ・『アントレプレナーシップ集中講座』 各自の探究活動のテーマについて社会実装のためのアイデアコンペティションを行い、探究テーマと社会とのつながりについての意識を高める。
委託内容	・カリキュラム編成への支援 ・『社会実装を見据えたものづくり』企画立案及び運営 ・『遺伝についてのワークショップ』企画立案及び運営 ・『アントレプレナーシップ集中講座』企画立案及び運営 ・事業の効果検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：カリキュラム策定及び各種企画立案 令和9年度：各種企画の開始、取組状況の分析と効果検証 令和10年度：各種企画の開始、取組状況の分析と効果検証

(3) 柔軟なカリキュラム編成の研究

区分	内容
取組の概要	生徒が自らの関心や進路希望に応じて、必要な学びを選択できる『柔軟なカリキュラム編成』の研究を進める。例えば、週のうちの何日かを5限授業とし、6・7限については、探究活動に時間を使う生徒がいる一方で、自分が課題を感じている教科の補講や、教員にマンツーマンで指導を受けるなど様々な学びの形に対応できる時間の創出のための方法を検討する。
委託内容	・カリキュラム編成への支援 ・柔軟な時間割編成や運用モデルの研究・構築に関する専門的な知見の導入 ・全国他校のカリキュラム編成に関する先進事例の提供 ・カリキュラム導入後の効果検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：外部専門家との協議も踏まえたカリキュラムの検討 取組の試行的実施 令和9年度：カリキュラムの実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：カリキュラムの実施 取組状況の分析と効果検証

(4) 放課後学習支援活動の展開

区分	内容
取組の概要	放課後に、生徒が主体的に学べるサポートスペースを開設する。メンターとなる大学生等の支援のもと、教科学習の課題克服から探究学習の相談まで自由に行える環境を整え、放課後学習支援活動を展開する。
委託内容	・実施体制の確立 ・メンターとなる大学生等の配置 ・事業の効果検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：実施体制の確立 令和9年度：大学生等の配置 令和10年度：大学生等の配置 事業の効果検証

(5) 放課後サイエンス・コミュニティの展開

区分	内容
取組の概要	さらに学びを深化させたい生徒が、DXラボや理科室等を活用した高度な内容の学びを主体的に展開する場『放課後サイエンス・コミュニティ』を実施する。 おかやま地域未来共創プラットフォーム(OLIVE)と連携して、様々な学習・研究・支援のため、参加大学のサテライトキャンパスの開設支援や、参加企業との共同研究等を実施する。また、大学教員、大学院生等を講師として、通常の理科の授業では扱わない高度な内容の講義やワークショップを行い、大学での学びを先取りして体感する。併せて、大学を訪問し、研究者による講義や個別指導を受ける『アカデミック・インターンシップ』の機会を設定する。
委託内容	・サテライトキャンパスや共同研究等の企画立案及び実施 ・大学教員等を招いた講義やワークショップの企画立案及び運営 ・『アカデミック・インターンシップ』の機会の創出 ・事業の効果検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：サテライトキャンパスや共同研究等の実施に係る調整 大学教員等を招いた講義やワークショップの実施に係る調整 『アカデミック・インターンシップ』の実施に係る調整 令和9年度：サテライトキャンパスや共同研究等の実施 大学教員等を招いた講義やワークショップの実施 『アカデミック・インターンシップ』の実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：サテライトキャンパスや共同研究等の実施 大学教員等を招いた講義やワークショップの実施 『アカデミック・インターンシップ』の実施 取組状況の分析と効果検証

(6) 各教科の対話的で探究的な授業実践

区分	内容
取組の概要	HR教室等にホワイトボード、高性能プロジェクタ、電子黒板、可動式の机等を整備し、各教科の授業において、対話的で探究的な学びを展開する。
委託内容	・探究的な学びに関する企画立案 ・指導案検討や授業構想に対するアドバイザー（外部有識者）の招聘 ・継続的な指導・支援
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：探究的な学びに関する企画立案 アドバイザー（外部有識者）の選定及び招聘に係る調整 令和9年度：探究的な学びの実施、取組状況の分析と効果検証 令和10年度：探究的な学びの実施、取組状況の分析と効果検証

(7) 高度でワクワクする理科の授業展開

区分	内容
取組の概要	理科室に高度な分析機や電子顕微鏡等を整備し、大学等と連携して高度な授業を展開するとともに、壁面をガラス張りにすることで、実験風景を目にした生徒に科学への関心が伝播する「透明性のある学習空間」を創出する。
委託内容	・大学と連携した高度な実験プログラムの開発・運営
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：大学との調整及び高度な実験プログラムの企画立案 令和9年度：大学と連携した高度な実験プログラムの実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：大学と連携した高度な実験プログラムの実施 取組状況の分析と効果検証

(8) 女性理系研究者育成のネットワーク構築

区分	内容
取組の概要	女性理系研究者等の育成につながる取組を行うとともに、それを他校へも公開し、県内への横展開を図る。 (1) 理系女子ロールモデルの提示 『放課後サイエンス・コミュニティ』等において、第一線で活躍する女性研究者の講演やワークショップ等を開催し、理系女子のロールモデルに触れる機会を創出するとともに、他校生徒の参加（参集・オンライン）も促す。 (2) 理系女子の交流場面の創出 協力校であるSSH校を中心として、理系を志望する女子生徒同士の交流を行い、互いの研究成果や、それぞれの進路意識の共有を図る。
委託内容	・全体の企画立案（他校（SSH校等）との合同開催の運営も含む） ・『放課後サイエンス・コミュニティ』等での女性研究者による講演会やワークショップの企画立案及び運営 ・理系女子ロールモデルの提示 ・他校（SSH校等）との交流プログラムの企画立案及び運営
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：外部専門家との協議を踏まえた規格の検討・策定 理系女子ロールモデルの提示並びに企画立案 他校との調整 取組の試行的実施 効果検証 令和9年度：交流プログラムの実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：交流プログラムの実施 取組状況の分析と効果検証

(9) 学びの相棒としての独自生成 AI の研究・開発と活用【本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	生徒自身が課題を整理し、思考を深めるための「対話」を行うことで、独自に育てることのできる『学びの相棒』としての独自生成 AI の研究・開発を進め、授業や探究活動などで日常的に活用し、学ぶ力の育成につなげる。

(10) 進路指導の最適化

区分	内容
取組の概要	生徒の多様な探究活動のログを蓄積するとともに、学校のこれまでの進路指導データ、最新の入試動向などを AI が分析し、生徒一人ひとりに最適な進路パスを提示するスキームを導入、活用し、学校推薦型・総合型選抜も含めた、生徒の探究活動の成果を進路実現に有効につなげる。
委託内容	・全体の企画立案 ・スキームの導入、運営、検証及び改善 ・活用方法に関する教員向け研修の実施運営 ・事業の効果検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：全体の企画立案 スキームの検討 取組の試行的実施 令和9年度：取組の試行的実施（1学期） 教員研修 本格実施（2学期以降） 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：取組の実施 取組状況の分析と効果検証

(11) 海外進学に向けた支援の強化

区分	内容
取組の概要	探究の成果をもとに海外進学を希望する生徒に対するエッセイ執筆指導や、海外大学とのマッチング支援等について、海外進学実績のある先進校と連携してノウハウを共有するとともに、海外進学エージェントを活用し、海外大学の指定校枠の協定締結等、海外進学先の開拓、研究を推進する。
委託内容	・ 全体の企画立案 ・ エッセイ執筆指導や、海外大学とのマッチング支援などの必要な支援 ・ 海外進学実績のある先進校との協議・調整 ・ 海外進学エージェントの活用 ・ 教員向け研修 ・ 事業の効果検証
実施時期 (現時点の想定)	令和8年度：企画検討 海外進学実績のある先進校との協議 教員向け研修 海外進学エージェントの活用開始 取組の試行的実施 令和9年度：本格実施 海外進学エージェントの活用 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：本格実施 海外進学エージェントの活用 取組状況の分析と効果検証

(12) 通信制課程の機能強化～理系科目を中心とした教材開発～

区分	内容
取組の概要	全日制の理系科目の授業配信やオンデマンド教材化等を行うことで、全日制の生徒も通信制の生徒も活用できる教材を開発する。
委託内容	・ 全体の企画立案 ・ 必要機材の検討及び整備 ・ 授業配信のシステム構築 ・ オンデマンド教材開発
実施時期 (現時点の想定)	令和8年度：企画検討、教材開発 取組の試行的実施 令和9年度：本格実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：本格実施 取組状況の分析と効果検証

(13) 通信制課程の機能強化～探究活動への支援の強化～

区分	内容
取組の概要	生徒の探究活動を促進し、成果を進路実現につなげるため、スクーリング日の空き時間や放課後に探究活動の伴走支援を行う探究支援コーディネーターを配置する。
委託内容	探究支援コーディネーターの配置 (業務内容) 通信制の探究活動の伴走支援や外部機関との連携、探究成果の進路実現を支援するなどのコーディネート業務を行う。 (想定人員) 上記のコーディネート業務を行うために必要な知識を有する者 (勤務形態) 1日当たり6時間、週2日程度を想定しているが、学校の教育活動等の状況を踏まえ、常駐型、パートタイム型、定期訪問型、オンライン支援型又はこれらを組み合わせた体制を提案できる。ただし、生徒及び教職員が継続的に相談でき、学校との信頼関係が蓄積される配置とし、単発的な講師派遣のみの提案は想定していない。 (配置時期) 契約締結後、すみやかに配置することを想定 ※探究支援コーディネーターの人件費及び出張旅費等の活動経費は、本委託料に含む。
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：探究支援コーディネーターの配置 令和9年度：探究支援コーディネーターの配置 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：探究支援コーディネーターの配置 取組状況の分析と効果検証

(14) 教員の資質・能力向上（視察系）【本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	①HTH（ハイテックハイ）の視察研修 PBLの総本山であるHTH（米）の視察を行い、授業参観、生徒・教員へのインタビュー、PBLのミニワークショップ体験などを体験し、生徒の探究活動を深化させるための伴走支援の知見を得る。 ②One Young World (OYW) へのオブザーバー参加 世界190か国から若手リーダーが集う国際サミットにオブザーバー参加し、世界の若手リーダーたちの課題意識や関心、世界的規模の 이슈 についてのアプローチの在り方について学び、生徒の探究活動への伴走支援に生かす。 ※①、②の派遣者は授業改革推進チームが主催する教員研修会の場で、研修内容の報告、共有はもとより、体験型ワークショップ等を行い、成果還元を図る。

(15) 各教科の授業が探究的なものになるための授業研修

区分	内容
取組の概要	指導教諭を中心とした授業改革推進チームにより、「他教科とのつながりの意識」「教科の本質に触れる」「学ぶ意義を実感できる」を全教科共通の授業デザインの指針として追求するとともに、生徒が自ら課題を設定し、主体的、探究的、対話的に学習を進めていくための、「学びの水先案内人」としての教師の役割という認識を共有することで、授業改革を図る教員研修を実施する。 また、各教科の授業研修会にアドバイザーを招聘し、研究授業だけでなく、そこに至るまでの授業構想や指導案検討など継続的な指導、支援を受け、授業力の向上を図る。
委託内容	・ 全体の企画立案 ・ 外部アドバイザー（有識者）の招聘 ・ 指導案検討や研究授業に対する継続的な指導・助言
実施時期 （現時点の想定）	令和8年度：企画検討 外部アドバイザー（有識者）の選定 令和9年度：外部アドバイザー（有識者）を招聘した教員研修実施 取組の効果検証 令和10年度：外部アドバイザー（有識者）を招聘した教員研修実施 取組の効果検証

(16) 県外先進校への訪問

区分	内容
取組の概要	探究的な学びや、文理横断的な学び、STEAM教育を実践している県外の先進校を訪問し、探究的・文理横断的な授業づくりの実践や、カリキュラム開発についての先進事例の収集を行う。
委託内容	・ 先進校の選定支援 ・ 先進校とのネットワーク構築 ・ 探究的・文理横断的な授業づくりの実践の検討 ・ カリキュラム検討・開発 ・ 先進事例集の作成
実施時期 （現時点の想定）	令和8年度：先進校の選定及びネットワークの構築 カリキュラムの開発 令和9年度：カリキュラムの実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：カリキュラムの実施 先進事例集の作成 取組状況の分析と効果検証

(17) 情報公開

区分	内容
取組の概要	高度な科学的素養と人文社会的視座を兼ね備えた資質・能力を育む、探究活動を核とした教育内容、探究活動の成果発表会、高度な機器を用いた実験、高等教育機関や企業と連携した取り組み等について、オンライン、オンデマンドで広く発信し、情報公開を行う。 また、校内課題研究発表会に、協力校を中心とした他校の生徒を招き、発表、質疑応答、対話を重ね、新たな視点を獲得する合同発表会を行い、県内高等学校の探究活動の深化につなげる。
委託内容	・ 全体の企画立案（発表会の運営や実験内容も含む） ・ 高等教育機関や企業との連携調整 ・ 事業分析及び効果検証
実施時期 （現時点の想定）	令和8年度：情報公開方法の企画立案・実施 高等教育機関や企業との連携調整 令和9年度：情報公開の実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：情報公開の実施 取組状況の分析と効果検証

(18) 大学・企業等との連携

区分	内容
取組の概要	おかやま地域未来共創プラットフォーム（OLIVE）を通して、大学、企業と連携し、探究活動を具体的なイノベーションへとつなげる。OLIVEが実施するセミナーや勉強会、解決すべき課題やテーマ発掘のためのワークショップやハッカソン、ニーズ・シーズマッチングのための検討会などの活動やイベントに参加し、課題研究、探究活動を深化させ、より具体的な「実践」へとつなげる。 また、各連携先とのコーディネートを行うとともに、企業・大学等で構成する協議体を設け、年2回程度、取組の進捗状況等について協議を行う。
委託内容	・ 全体の企画立案 ・ OLIVE との連携に係る支援・調整 ・ OLIVE が実施するセミナーや勉強会への参加を促進 ・ 効果検証
実施時期 （現時点の想定）	令和8年度：全体の企画立案 OLIVE との連携に係る支援・調整 令和9年度：事業開始 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：事業の実施 取組状況の分析と効果検証

(19)アントレプレナーシップの醸成

区分	内容
取組の概要	探究活動によるアイデアの商品化や合同コンペ等を実施。起業に関心のある生徒の掘り起こしも行う。また、生徒の探究活動とスタートアップ企業関係者とのマッチングを行い、探究活動の場を広げる。
委託内容	・全体の企画立案 ・アイデアの商品化に係る生徒支援 ・合同コンペの実施・運営 ・関連企業との調整 ・効果検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：全体の企画立案 合同コンペの実施に伴う調整 関連企業との調整 令和9年度：事業開始 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：事業の実施 取組状況の分析と効果検証

(20) プレゼンテーションイベントの情報収集と参加支援

区分	内容
取組の概要	県内外のプレゼンテーションイベント（生徒が参加できる大会やコンテスト）等の情報を収集し、紹介する。参加を希望する生徒がいる場合は、参加について支援する。
委託内容	・イベントの情報収集及び紹介 ・希望者への参加支援 ・参加生徒の情報把握と効果検証
実施時期 (現時点の 想定)	令和8年度：イベントの情報収集及び紹介 希望者への参加支援 令和9年度：イベントの情報収集及び紹介 希望者への参加支援 令和10年度：イベントの情報収集及び紹介 希望者への参加支援 取組状況の分析と効果検証

(21) BeLive【本委託業務の対象外】

区分	内容
取組の概要	BeLive 実行委員会が主催する「BeLive」プレゼンテーションイベントへの参加はもとより、探究活動の過程において、企業や団体のメンバーから指導、助言を受ける。

(22) 「未来航路」の発展と課題研究発表会の公開

区分	内容
取組の概要	未来航路について、中高一貫校の強みを活かした中学校からの6年間を通じた探究活動を研究し、実践を支援する。また、課題研究発表会を開催し、協力校はもとより、広く他校にも公開し、成果を具体的な探究の姿によって共有、普及する。また、当日の発表会の様子はオンラインで配信を行い、全県立高校から視聴可能とする。
委託内容	・ 全体の企画立案 ・ 中高一貫の探究活動先進校の選定と連携支援 ・ 協力校との連携支援 ・ オンライン配信の設計 ・ 効果検証（他校への影響度も含める）
実施時期 （現時点の 想定）	令和8年度：全体の企画立案 オンライン配信の設計 令和9年度：「未来航路」課題研究発表会の実施 取組状況の分析と効果検証 令和10年度：「未来航路」課題研究発表会の実施 取組状況の分析と効果検証

(23) 事務局機能

区分	内容
取組の概要	上記取組の実施に必要な事務局機能を委託することで、教職員の業務負担を軽減する。
委託内容	・ 外部人材への謝金・旅費等の支払い実務 ・ 事務局機能（会議調整、議事録作成、資料整理等）の実施

5 施設・設備整備について

本事業で想定している以下の施設・設備整備の内容について、受託者は共通仕様書 6（2）イの業務を行うこと。なお、設計・工事の発注や備品の購入契約自体は本委託業務の対象外とする。

教室等の名称	施設整備の内容（想定）	導入設備（想定）
発表ホール	・新築 ・駐車場整備	・LED ビジョン ・可動・固定座席 ・電子黒板 ・ミーティングテーブル、チェア ・ワークテーブル ・パーティション
探究ラーニングコモンズ	・三号館 4 階 LL 教室・第二地歴公民科室改修 ・床面タイルカーペット化	・電子黒板 ・ホワイトボード ・スクリーン ・高性能プロジェクタ ・モバイルホワイトボード ・可動式一体型机・椅子
普通教室	・二号館等普通教室・セミナー教室・通信制講義室・トイレ改修 ・内装木質化 ・黒板ホワイトボード化 ・外廊下雨吹き込み対策 ・床面タイルカーペット化	・高性能プロジェクタ ・電子黒板 ・可動式机・椅子 ・録画配信設備一式 ・講義集録システム ・オートフレーミングカメラ
通信制コモンルーム	・平屋増築 ・コモンルーム・キャリアカウンセリングルーム整備 ・空調設備新設	・パソコン ・プリンター ・高性能モニター ・配信スタジオ ・楕円形テーブル、長机、椅子
DX ラボ	・三号館 3 階図書室改修 ・大容量電源整備 ・局所排気装置 ・壁面、窓ガラスホワイトボード化 ・防音吸音仕様スタジオ整備	・防災・防汚ワークデスク
配信教室・スタジオ	・三号館 3 階和室改修	・ライブスイッチャー ・デジタルミキサー ・シーリングマイク

教室等の名称	施設整備の内容（想定）	導入設備（想定）
物理教室	・ 三号館 3 階理科室改修 ・ 黒板ホワイトボード化 ・ 壁面ガラス張り改修 ・ 床面強化・マーキング施工 ・ 耐荷重 100Kg 超え天井レールフック	・ 可動式ストレージシステム ・ ワイヤレスハイスピードカメラ ・ 力学センサー ・ 高精細ディスプレイ ・ 4K 高画質カメラ
化学教室	・ 三号館 2 階理科室改修 ・ 黒板ホワイトボード化 ・ 壁面ガラス張り改修	・ デジタル管理型薬品庫 ・ 高性能ドラフトチャンバー ・ 4K 高画質カメラ
生物教室	・ 三号館 2 階理科室改修 ・ 黒板ホワイトボード化 ・ 壁面ガラス張り改修 ・ 中庭電源整備、デッキ設置	・ クリーンベンチ ・ オートクレーブ ・ 顕微鏡保管庫 ・ デジタル顕微鏡 ・ 4K 高画質カメラ ・ 電源付きベンチ